

第 11 回環境研究シンポジウム  
水圏・海洋を巡る環境研究の最前線  
の開催について（お知らせ）

（筑波研究学園都市記者会、環境省記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会、農政クラブ、農林記者会、農業技術クラブ、林政記者クラブ、水産庁記者クラブ、経済産業記者会、経済産業省新聞記者会ペンクラブ、国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、国土交通省交通運輸記者会、気象庁記者クラブ、神奈川県庁記者クラブ同時発表）

平成 25 年 10 月 10 日(木)

環境研究機関連絡会

環境研究を行う国立、独立行政法人及び国立大学法人の 13 研究機関から構成される環境研究機関連絡会は、平成 25 年 11 月 13 日（水）、一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）において、第 11 回環境研究シンポジウムを開催し、各研究機関における環境研究の成果を広く国民にお知らせします。

今回のシンポジウムでは、『水圏・海洋を巡る環境研究の最前線』をテーマとして、10 件の講演を行います。また、約 100 件のポスター発表によって、各研究機関における環境研究の最新の成果をお伝えします。

多数の皆様のご来場をお待ち申し上げます。

1. 日 時：平成 25 年 11 月 13 日（水） 12：00 ～ 17：45
2. 場 所：一橋大学一橋講堂(学術総合センター内)  
〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号  
TEL：03-4212-3900
3. プログラム：以下の 3 部構成（詳細は別紙参照）  
第 1 部：川上から川下までの水圏環境研究  
第 2 部：沿岸域を中心とした水圏環境研究  
第 3 部：グローバルな視点からの水圏環境研究
4. 参加費：無料
5. 参加登録：参加ご希望の方は、下記のウェブページから登録をお願いします。  
<https://www.omc.co.jp/kankyokenkyu/>

6. 環境研究機関連絡会とは

今日発生している様々な環境問題を解決するためには、各専門領域にとどまることなく、これらを含めた総合的視点から、各専門分野の研究を推進する必要があります。

また、環境研究に関する多様なニーズに応え、効果的、効率的な研究を推進していくため、新たな情報交換の場を設け、より一層、連携・協力を緊密にしていくことが不可欠となっています。

そこで、環境研究に携わる国立、独立行政法人及び国立大学法人の研究機関が情報交換し、環境研究の連携を緊密にするため、「環境研究機関連絡会」が平成 13 年に設置されました。

連絡会では、

- (1) 環境研究の推進状況の紹介と相互理解
- (2) 環境研究の主要成果の紹介
- (3) 環境研究の協力・連携・連絡

などを行っています。

7. 環境研究機関連絡会の参加機関（平成25年10月現在）

独立行政法人防災科学技術研究所  
独立行政法人物質・材料研究機構  
独立行政法人農業環境技術研究所  
独立行政法人森林総合研究所  
独立行政法人水産総合研究センター  
独立行政法人産業技術総合研究所  
国土交通省気象庁気象研究所  
国土交通省国土技術政策総合研究所  
独立行政法人建築研究所  
独立行政法人港湾空港技術研究所  
独立行政法人土木研究所  
独立行政法人国立環境研究所  
国立大学法人筑波大学

8. お問い合わせ先：

環境研究機関連絡会 事務局

（独立行政法人水産総合研究センター 研究推進部 担当：長崎）  
〒220-6115 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-3  
クィーンズタワーB 15F  
TEL：045-227-2679 FAX：045-227-2704

（国土交通省気象庁気象研究所 企画室 担当：海老田）  
〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1  
TEL：029-853-8532 FAX：029-853-8545

9. 会場周辺地図：学術総合センター（神保町駅から徒歩3分、竹橋駅から徒歩4分）



## プログラム

### 【講演会】

13:00 開会挨拶 (独) 水産総合研究センター 理事長 松里 壽彦

### (第1部：川上から川下までの水圏環境研究)

13:10 講演1 森林における物質の動態と下流への流出 (20分)

講演者：(独) 森林総合研究所 立地環境研究領域

チーム長 小林 政広

13:30 講演2 農地から水圏へ窒素負荷流出研究の現状 (20分)

講演者：(独) 農業環境技術研究所 物質循環研究領域

主任研究員 板橋 直

13:50 講演3 河川汽水域の保全と再生 (20分)

講演者：国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室

主任研究官 中村 圭吾

14:10 講演4 水中の汚染物質の検出法の開発

～ナノ材料と光を用いた高感度な検出法について～ (20分)

講演者：(独) 物質・材料研究機構 国際ナノアーキテクトニクス研究拠点

ナノシステム構築ユニット ナノシステム光学グループ

グループリーダー 長尾 忠昭

### (第2部：沿岸域を中心とした水圏環境研究)

14:30 講演5 海洋のリン循環に関する研究 (20分)

講演者：(独) 産業技術総合研究所 環境管理技術研究部門

海洋環境評価研究グループ長 鈴木 昌弘

(休憩 15分)

15:05 講演6 漁場環境保全を目指した海洋研究のフロンティア (20分)

講演者：(独) 水産総合研究センター 研究推進部

研究開発コーディネーター 長崎 慶三

15 : 25 講演 7 干潟・砂浜の生態地盤学 (20 分)

講演者 : (独) 港湾空港技術研究所 地盤研究領域

動土質研究チームリーダー 佐々 真志

**(第 3 部 : グローバルな視点からの水圏環境研究)**

15 : 45 講演 8 北極域環境研究最前線 : 北極がホットになるホットな話題 (20 分)

講演者 : 国立大学法人筑波大学 生命環境系 教授

計算科学研究センター 地球環境研究部門長 田中 博

16 : 05 講演 9 「もうひとつの CO<sub>2</sub>問題」海洋酸性化と海の二酸化炭素観測 (20 分)

講演者 : 国土交通省気象庁気象研究所 海洋・地球化学研究部 第三研究室

研究官 小杉 如央

16 : 25 講演 10 サンゴ礁への気候変動の影響 : 地球温暖化と海洋酸性化 (20 分)

講演者 : (独) 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター

生物多様性保全計画研究室

室長 山野 博哉

16 : 45 閉会挨拶 (独) 防災科学技術研究所 理事長 岡田 義光

**【ポスター発表】**

○ 展示時間 12 : 00 ~ 17 : 45

○ 発表時間 12 : 00 ~ 12 : 45、17 : 00 ~ 17 : 45